

ワークショップの概要

1 手法

MIDORI モデルを都市計画に応用させ、将来像を達成するための計画づくりを、住民の役割、市町村の役割、県・国の役割等にいたるまでを住民参加のワークショップ方式で行った。ワークショップそのものは、住民参加から始めるのではなく、各区域市町村の都市計画担当者を招き、プレワークショップという形で MIDORI モデルのレクチャーやワークショップの動かし方をシミュレーションし、住民参加ワークショップ本番に備え、ファシリテーターを養成した。

プレワークショップの様子（7/22 県庁4階講堂にて）



各区域とも、土地利用、都市交通及び都市施設、都市環境の3分野を設定（石川区域は総合分野のみ）し、参加者の意向に沿って各分野グループに配置し、コンサルタント以外に県都市計画課職員もファシリテーターとなってプレワークショップを展開した。

石川区域：1グループ（総合的分野）

コザ広域区域：土地利用分野1、都市交通分野2、都市環境分野1の4グループ

那覇広域区域：土地利用分野2、都市交通分野3、都市環境分野2の7グループ

住民参加ワークショップは、第1回目：地域の課題抽出と将来像(QOL)、指標・目標値の設定、第2回目：将来像達成のための具体的活動や各主体の役割分担、住民啓発手法等について検討し、いずれのワークショップも第2回目の後半の部で、一般参加者を含めたパネル・ディスカッションを行い、ワークショップの成果確認と意見交換を行った。

2 参加者の選出

県レベルの計画づくり、MIDORI モデルの応用と実践などの特殊性から、一般公募による住民参加ではなく、関係市町村による参加者推薦という方法を採用。推薦された住民の了承を得て、ワークショップに参加していただいた。

計画策定後には、各市町村の主体性とともにより市町村間の広域連携等が求められることから、住民に加え、各分野・グループにより市町村の都市計画担当課長も加わり意見交換を行った。

各区域の延べ参加者数：248人（第1回及び第2回ワークショップの延べ参加者数）

3 ワークショップの工程

10月13日：コザ広域・石川合同の第1回ワークショップ(沖縄市産業交流センターにて)

- ・各区域のまちづくりの主要課題を抽出、将来像(QOL)の設定、将来像達成のための指標・目標値の設定
- ・第1回目ワークショップ成果の発表(各グループ) 参加人数：27人



10月20日：那覇広域の第1回ワークショップ(沖縄産業支援センターにて)

- ・各区域のまちづくりの主要課題を抽出、将来像(QOL)の設定、将来像達成のための指標・目標値の設定
- ・第1回目ワークショップ成果の発表(各グループ) 参加人数：51人



10月27日：石川の第2回ワークショップ（石川市中央公民館にて）

- ・将来像達成のための行動・社会活動、環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目までを検討
- ・第1回及び第2回までの成果としてワークシートを完成させ、発表（住民による）を実施
- ・発表後、一般参加者を交えパネル・ディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数：10人



11月3日：コザ広域の第2回ワークショップ（具志川市商工会館にて）

- ・将来像達成のための行動・社会活動、環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目まで検討。
- ・第1回及び第2回までの成果としてワークシートを完成させ、発表（住民による）を実施
- ・発表後、一般参加者を交えパネル・ディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数：17人



11月10日：那覇広域区域の第2回ワークショップ（浦添市中央公民館にて）

- ・将来像達成のための行動・社会活動、環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目まで検討。
- ・第1回及び第2回までの成果としてワークシートを完成させ、発表(住民による)を実施。
- ・発表後、一般参加者を交えパネル・ディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数：38人



平良の第1回ワークショップ（12月7日：ABA220ビルにて）

- ・土地利用チーム及び都市環境チームの2グループに分かれ、各区域のまちづくりの主要課題を抽出し、将来像（QOL）の設定から、将来像達成のための指標・目標値の設定までを行った。
- ・第1回目ワークショップの成果発表（各グループ）

参加人数：13人



平良の第2回ワークショップ（12月14日：ABA220ビルにて）

- ・前回ワークショップ成果の確認及び設定した指標・目標値に関連した現況データの確認を行った。次に、将来像達成のための行動・社会活動、環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目までを検討し、ワークシートを完成させた。
- ・各グループによるワークシート内容（成果）の発表
- ・発表後、参加者全員によるディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数：9人



石垣の第1回ワークショップ(12月8日:石垣市健康福祉センターにて)

- ・土地利用チーム及び都市環境Aチーム、都市環境Bチームの3グループに分かれ、各区域のまちづくりの主要課題を抽出し、将来像(QOL)の設定から、将来像達成のための指標・目標値の設定までを行った。
- ・第1回目ワークショップの成果発表(各グループ)

参加人数:19人



石垣の第2回ワークショップ(12月15日:石垣市健康福祉センターにて)

- ・前回ワークショップ成果の確認及び設定した指標・目標値に関連した現況データの確認を行った。次に、将来像達成のための行動・社会活動、環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目までを検討し、ワークシートを完成させた。
- ・各グループによるワークシート内容(成果)の発表
- ・発表後、参加者全員によるディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数:16人



名護・本部の第1回ワークショップ

(1月12日：21世紀の森体育館にて)

- ・名護区域は土地利用チーム及び都市環境チーム、本部区域は総合チームと3グループに分かれ、各区域のまちづくりの主要課題を抽出し、将来像(QOL)の設定から、将来像達成のための指標・目標値の設定までを行った。
- ・第1回目ワークショップの成果発表(各グループ)

参加人数：25人



名護・本部の第2回ワークショップ

(1月19日：21世紀の森体育館にて)

- ・前回ワークショップ成果の確認及び設定した指標・目標値に関連した現況データの確認を行った。次に、将来像達成のための行動・社会活動・環境因子の検討、住民・地域の役割、市町村の役割、県・国の役割の検討、住民啓発・教育及び施策・法規・組織に関する項目までを検討し、ワークシートを完成させた。
- ・各グループによるワークシート内容(成果)の発表
- ・発表後、参加者全員によるディスカッションを実施し、意見交換を行った。

参加人数：23人



地域の自然と風土を受け継ぎ伝える コミュニティ活かした 潤いのまちづくり

達成指標、目標値

- ・土地利用のバランスを図る指標づくり
- ・緑地(緑、水辺)の割合
- ・緑をいつでも実感できる
- ・土地基盤の整備状況が同じ程度
- ・死んだ土地(使われていない土地)が減る
- ・おじー、おばあーや車イスの人がまちに多くいる
- ・小さなコミュニティ毎の広場数と交流が増す(公園)
- ・住民アンケートによる住環境の満足度
- ・川に蛍やアメンボがいる
- ・心が落ち着く
- ・子供達が遊べる場所がたくさんある
- ・まちなかに工場があっても気にならない
- ・まちがわくわくする(観光地)
- ・尾根線が見える
- ・自動車が少なくなる

実践行動と社会活動

緑のまちづくり(生垣等の住民ができる緑化を進める、一人一鉢運動(家の前に一鉢) 街路樹を選定できる工夫、共有資産化による造林の推進と排水処理施設の早期整備等)

コミュニティ(その場所にある自然や歴史を活かし地域コミュニティを中心にしたまちづくり、自治会等での定期的なイベントの開催等、子供会等による休日の公園清掃作業や朝起き会などのボランティアの実施、個人の樹木でもコミュニティで管理する組織をつくる、コミュニティ活動のネットワークを支援する組織づくり、経済効果だけでなくコミュニティを活かした細かな土地利用等)

環境への配慮等(ペットボトルやビニール袋等の土への返還可能なものを使う、水に親しめるまちづくり等)

住民参加のまちづくり(地域の遊休地を活用したミニ公園を住民がつくる、すべての道路に名前をつける(公募する)、住民が道路植栽等を自らのエントラスゾーンとして維持管理を行う等)

都市と農村の交流

コーポラティブハウスの推進による潤いのある住宅地づくり

環境因子

- ・自然をいかした公園整備
- ・広場、水辺、樹木の管理体制の充実(役所も住民も)
- ・中心市街地や商店街の特色を生かした再生システム(ポケットパーキング、行政と民間による空地の活用、小規模な整備、伝統を残す等)
- ・商業活性化の核となる広場の設置
- ・コミュニティを活かした商店街等の活性化
- ・用途、土地利用の中で(住宅地、商業地、密集市街地等)コミュニティがはかれる人中心の道路整備
- ・調整区域での土地利用が活性化できる制度の検討
- ・新旧市街地におけるコーポラティブハウスの公的組織の創設
- ・路上駐車をなくすため地域の空地を自治会駐車場として整備
- ・環境にやさしい川沿いの改修工事をする
- ・開発の一部に住民で協力して設ける一角を設ける(公園等)
- ・住宅地と商業地域の区別(税金と線引き)
- ・電柱の埋設
- ・地域にあった地区計画の導入
- ・市民農園の開設
- ・旧市街地の再生支援センターの設立(災害対策、整備の特例)

住民や地域の役割

- ・地域の歴史文化の再確認
- ・地域リーダーの育成
- ・住民の緑化に対する意識の向上
- ・自治会の結束及び活性化
- ・地域特産物の再確認をして活性化をはかる
- ・塀は生垣にする等の緑化協定の制定
- ・地域の公共空間は地域住民が維持管理する
- ・住民が道路植栽等を自らのエントラスゾーンとして認識する
- ・古木、老木処分をネットで公開して移植をする
- ・住民レベルでの緑化協会等(地域活動をする様々な協会)を立ち上げる
- ・活動別(専門別)の組織を育成し、行動できる環境を整える、考える(子供~老人、NPOまで)
- ・専門的知識と経験を持った人材の活用
- ・地域内のボランティア的組織(専門組織)を育成し、バックアップする。

市町村の役割

- ・自治会活動への活動資金援助
- ・まちづくりに関する情報の提供
- ・市街化区域と調整区域との調和のとれた線引き、住民アンケート調査等の実施
- ・住民と行政がまちづくりに対する話し合いができる場をつくる
- ・グリーンバンクの設立
- ・道路等、土地が小さい旧市街地に対して行政が駐車場整備による確保をする
- ・中心市街地の活性化の為、パークアンドライドの連結、モノレールと無料駐車場の確保
- ・住民の声を取り入れまちづくりを実践する
- ・植栽の管理(県、市町村道沿いの植木、花木など)を住民に依頼する
- ・利用者の立場にたった公園等の整備
- ・住民の声をアンケートなどで拾い施設整備をする
- ・高齢者と子供の施設等の確保
- ・風土環境に根差した特別用途地域計画(歴史的保存地区の様な)
- ・農地指定と農業政策の一体化

国や県の役割

- ・個性あるまちづくりに資する事業
- ・市街地再開発のあり方(複合施設、高度利用化、オープンスペースとのセット)
- ・用途地域の独自性(地域性)、混在化
- ・住民の声を取り入れまちづくりを実践する
- ・潤いネットへの資金援助
- ・目標達成の為の制度(条例等)財政的支援を明確に住民へ提示する

住民啓発・教育

- ・老人や子供達の交流や遊びによる地域のまちづくりでの歴史、文化等の守るべきものの教育(昔話の伝達など)
- ・学校教育にコミュニティ授業(先生は社会。地域の歴史、文化、守るもの等)
- ・経済効率から長期スパンでの精神(潤い)効率会議
- ・潤いネット(ワークショップ、講演会、活動、継続)
- ・マスメディアの利用して緑の効果を市民にPR
- ・行政と住民、または各地域における住民主体のワークショップ
- ・地域(自治会)レベルでの行政が行う広報活動
- ・将来的なまちづくり、行政情報の発信(コンセンサスの確立)
- ・地域の取組み事例のまとめ(行政)
- ・まちづくり(地域づくり)のリーダー研修
- ・行政が地域に対し行う地域懇談会

施策・法規・組織

- ・沖縄にあった法規の見直しや新たな制度等の創設(既存露地住宅を生かす条例、遊休農地等を有効活用できる法制度、歴史的街並み保存制度、密集市街地災害に対応できる法制度、敷地の緑の割合、海岸線に面した地域を景観重視とした条例等による制限等)
- ・グリーンバンクの表彰、賞制度
- ・潤いネットの創設(住民まちづくり協議会)
- ・場所による建築物の高さ制限の強化
- ・産官学等を含むまちづくりの話し合いができる組織づくり
- ・まちづくり委員会等を設置し、地域の高齢者を入れ話し合う
- ・通勤手当を歩いて通う人に特別手当を出す
- ・都市緑地に対し、ある程度の条例、規則を設ける

多様な交通手段の連携による 快適で安心して移動できる 交通環境づくり

達成指標、目標値

- ・騒音レベルが低くなる
- ・広域内での移動時間(60分以内、誤差5分程度等)
- ・渋滞率の低下
- ・排ガスの減少
- ・自家用車の利用率の低下
- ・交通事故件数の減少
- ・歩道や街路樹の整備率
- ・歩行者数の増加
- ・信号停止回数
- ・バスの運行と定時性
- ・公共交通の利用率の向上
- ・公共駐車場の整備率
- ・CO2の排出量の低下
- ・自動車保有台数
- ・自転車台数の増加
- ・公園の利用率
- ・観光客の増減
- ・マラソンを練習するランナーの増加
- ・自主的なまちづくりワークショップが頻繁に行われるようになる(市民参加の回数が増える)
- ・住民参画の度合(時間、予算)
- ・子供、お年寄り等が気軽に屋外で過ごせる
- ・交通弱者の移動率の増加

実践行動と社会活動

渋滞、排ガス問題等対策(出勤時等は自家用車の相乗りを進める、バスや自転車等の積極的利用により混雑解消をする、ノーマイカーデー、通勤にはバスを利用する、時差出勤、一方通行化の推進、パークアンドライドの積極的な活用等)

住民参加(住民参加により公共施設等を充実させる、住民が主体となった花いっぱい運動の実施、通り会と連携した通りの緑化、街路樹の管理(住民が植樹する)、住民参加によるバス路線の見直し等)

交通マナーを守る(交通安全街頭指導、渋滞時は青でも交差点に進入しない、交通渋滞や交通事故を引き起こす路上駐車車両の取り締まり、各家庭での車庫確保等)

道路環境の改善(バリアフリー化による弱者への配慮、花木を大切に育てる、ゴミ問題など条例や規則を守る、沿道緑化協定、コミュニティ道路や歩行者専用道路の整備、地区計画を早めにきちんと決め街並みをそろえる、自動車の速度制限等)

道路ネットワークの公表(マップ、GPS)

まちづくりに対するアンケート調査の実施

近距離へは歩く、または自転車で移動する

ゆいレールの利用(県、市職員、モノレール沿線)

環境因子

- ・沖縄バージョン道路整備基準の確立
- ・交差点の立体化
- ・目的別交通体系(長距離と生活距離)の区別
- ・地域公園へのアクセス自転車道の整備
- ・混雑情報ナビゲーションシステムの整備
- ・衣食住遊が各地域やコミュニティ単位で完結できる都市整備
- ・歩道の街路樹整備など緑化と公園化(ポケットパーク)
- ・道路拡張工事や信号の追加設置
- ・都市全域に自転車道を整備
- ・右折車線の確保(信号の右折を増やす)
- ・沖縄自動車道の利用別料金システム(産業別、曜日別)
- ・わかりやすい案内標識等の整備(観光名所、施設)
- ・那覇など交通集中する地区へのLRTの導入、整備
- ・人の停留所をつくる(商店街活性化、掲示板、ベンチ、100m間隔の案内サイン)
- ・バリアフリーの道路、サイン歩道
- ・緑陰のあるポケットパークの整備
- ・道路密度(幹線道路3.5km/km)以上の整備
- ・広幅員の歩道の確保(停車帯を少なくしてもよい)
- ・各地域の主要場所に駐車場や駐輪場の設置(モノレール等との連携)
- ・主要交差点にポケットパークと100mおきのベンチ、屋根付のサイン
- ・モノレールやバスの料金の値下げ。ワンコインシステム
- ・バリアフリー化した交通機関、環境の整備(リフトバス、低床バス)
- ・バスレーンの充実(専用車線の設置)

住民や地域の役割

- ・まちづくり活動への積極的な参加
- ・一人一人が自分のこと、他人のこと、地域のことを考える
- ・市民同士コミュニケーションをとる
- ・あきらめない
- ・道路も生活空間の一部として認識し、各家庭前の道路の草刈を実施
- ・地域住民の地域道路清掃、管理
- ・税金をきちんと、多く払う
- ・狭い道路を皆で広く使うため路上駐車をしない
- ・LRTシステム導入の住民運動の展開と要請
- ・通勤時の街頭指導員の設置(警察と連携)
- ・地域リーダーの育成 NPO 法人の設立等
- ・まちづくりは地域が主体、個人も整備費用の一部を負担する
- ・地域でまちづくりコンクールの開催
- ・歩道にカンバン等を置かない
- ・ゴミを路上に捨てない
- ・一方通行化等の交通施策を理解する
- ・歩道の床タイルを地域住民がつくる

市町村の役割

- ・車から自転車通勤に変え、業績向上の会社を発表する
- ・各団体、自治会等への説明や協力依頼
- ・自転車が安全に利用できる道路整備
- ・バス停の整備(屋根付、ベンチ、時刻表)
- ・バス専用道路の整備
- ・税金を住民のニーズに合わせて無駄なく有効に使う
- ・不信感を持たせない努力をする
- ・行政間又は市民とのコミュニケーションをとる
- ・緑化、草花等の助成
- ・地域住民の道路清掃や管理への補助金制度
- ・商業施設(賃貸店舗含む)に駐車場やポケットパーク等の設置を義務化する
- ・公開空地の緩和とそのPRを積極的にする
- ・地域のまちづくりの方向性を明確にする
- ・各地域の合意を得たゾーニングをつくる
- ・交通機関利用回数券の補助
- ・行政への交通費は回数券を配布する(バス、モノレール)

国や県の役割

- ・路面電車及びパークアンドライド等の都市計画マスタープランでの位置付け(LRTを含む)
- ・地方分権の完全実施(財政移譲)
- ・都市計画法の見直し
- ・サマータイム(時間帯)のような産業別、交通規制
- ・税金を各地域のニーズに合わせて無駄なく有効に使う
- ・不信感を無くす、努力する(クリアに)
- ・電柱のない道路(地下埋設)
- ・広域内コミュニケーションの調整役となる
- ・地球や人にやさしい活動(事業、組織)に対する資金的補助、
- ・電動自転車の価格を下げる
- ・LRTシステム導入についての補助制度の確立
- ・都市計画法等、その他の予算関係等の規則が多すぎる(見直し)
- ・市民、行政、事業者「人づくり」に金と時間をもっと有効的にかける

住民啓発・教育

- ・まちづくりシンポジウムの開催
- ・まちづくり住民会の立ち上げ、住民への啓発活動への実践
- ・金と時間を有効的にかけた意識啓発
- ・ちゃんと教える事のできる教育者育成の為にしくみづくり
- ・沖縄にあった文化や環境教育
- ・学校教育の中で楽しみながらの指導(環境への配慮など)
- ・交通停滞で失われている時間と資本をリアルタイムで標板に示す
- ・住宅敷地内に緑を増やす、地域緑化、各家庭レベルでの意識改善
- ・子供達に教育として停滞時とすいている時の通行体験をさせる
- ・道路交法は親の教育から
- ・排気ガス体験や新鮮な空気のいなか道体験をさせる
- ・子供達が街路樹を植える
- ・職業や立場に関係ない県民一人一人の徹底した意識啓発活動(金と時間をかける)
- ・道路のある風景画や写真コンクール
- ・専門家を含めた住民との勉強会

施策・法規・組織

- ・沖縄の文化や環境に合った政治や法律等をつくる
- ・排気ガスのないクリーン車にかえる政策
- ・情報公開を徹底できる法、制度、体制の整備
- ・チェック機関、第三者評価組織づくり
- ・クリーン車の購入資金やバリアフリー車両購入への補助
- ・道路交法を厳しくする
- ・住民参加の徹底をうたった制度等をつくる
- ・沖縄の気候に合った道路構造令、アスファルト舗装要項、道路工法
- ・税金の各個人による直払い(実感をもつ)
- ・地球や人にやさしい活動(事業、組織)に対する資金的補助
- ・路面白線を細めにして予算を減らす(管理費にまわす)
- ・子供にもわかりやすい政治
- ・クリアな政治
- ・人中心の道路構造を見直す
- ・マスタープラン作成時の住民参画を法的に義務化する
- ・住民も参加した交通ネットワークづくり委員会の設置

自然とうまんちゅの心の財産を継承する快適で健康的なまちづくり

達成指標、目標値

- ・緑地量、緑地率(区域内でのバランス、適正配置) ・敷地に対する緑の割合 ・木陰でゆんたくする人の数 ・在来種の数(風土)
- ・緑地、河川、海域の自然度 ・水質(河川、海) ・復元、保護、起伏すべき地域の設定(数や面積)
- ・自然とのふれあい度
- ・道路混雑度 ・公共交通の利用率 ・都市での歩行率 ・街路樹の本数とボリューム
- ・ゴミの量(家庭や企業のゴミの減量、資源化率、道路・河川・海岸・公園等への不法投棄量)
- ・ゴミ処理機の設置率(家庭、企業) ・住民意識調査(道路、公園、緑、自然環境、ゴミ問題、その他)
- ・公園の利用度と数 ・環境教育の予算額

実践行動と社会活動

民有地の緑化(一戸に一本の木を植える、垣根をは竹やアカバナー等を使い景観に配慮する、企業の緑化運動等)

自然環境の保全と創出(在来種の保護や在来樹種の植樹促進、自然保護地域の設定、イノーで遊べるよう海岸線のあるべき姿で残す、生物の集まりやすい緑の創出等)

地域資源を都市環境づくりに活かす(新たな公園の設置をするより、旧集落の地域資源を共有する緑としていかす、何気ない身近な自然についても、まちの中でどう位置付けるか皆で考える、身近な生活環境について改めて考える場と機会づくり等)

道路、交通環境の整備(ノーマイカーデーや時差出勤の実施、パーク&バスライドの実現、利用者考えたバス路線の統合及び定時制の確保、道路緑地帯の環境整備、維持管理の徹底、CO2吸収量及びゴミ吸着量の多い樹種の選定等)

ゴミの減量化(各家庭からでるゴミを減らす、生ゴミの飼料化・肥料化、適正なゴミ分別の強化と徹底指導、等)

人材の育成(環境教育の実施、地域の語りべを発掘し、歴史や文化を大切に伝えていく試みを行う、子供達を幼少の頃から自然と親しませる、地域で緑を考えるサークル活動を行う等)

環境因子

- ・個々の住宅にも緑を増やすしくみをつくる
- ・行政の緑化に対する補助金制度の整備
- ・自然公園に指定し緑地を保全する
- ・自然に配慮した整備(斜面地はコンクリート等の擁壁とせず自然をいかす、河川はコンクリートにせず魚や生き物が住む自然の川にする、親水性のある川等)
- ・沖縄特有の樹や花の配布
- ・歩道の拡張 ・透水性機能のある道路整備
- ・交通弱者へ配慮した道路環境づくり)
- ・公共交通システムの整備、充実
- ・デポジット制度の導入(ペットボトル、カンの販売規制)
- ・公園づくり等での住民参加システムの構築
- ・ユニバーサルデザインに基づく公園整備
- ・歩いていける範囲の公園整備

住民や地域の役割

- ・一人一人がまちづくりに関心を持つ
- ・家庭内で緑の大切さを親子で話し合う環境をつくる
- ・企業内でも緑の大切さを教え、活動していく
- ・地域住民によるまちづくりサークル活動等に参加する(一人一鉢運動、地域で緑を考えるサークル、ナショナルトラスト等)
- ・公共交通を利用しようと思う
- ・問題点の解決に向けて住民から行政や事業者に対して働きかける(バス停留所の設置等)
- ・一人一人がゴミ減量やリサイクルの必要性を認識する
- ・住民マナーの向上(規制等を守る)

市町村の役割

- ・住民との定期的な意見交換の場、担当窓口の設置、そのための人材育成
- ・個々の住宅の緑への助成制度の確立
- ・情報公開(交換)の実施
- ・広域的なゴミ収集及び分別の統一、有料化の検討
- ・学校の環境教育への金銭的な支援
- ・学校施設の一般開放、活用
- ・子供に自分達のまちについて考え発表する場を企画する
- ・専門性のあるNGO、NPOの育成支援

国や県の役割

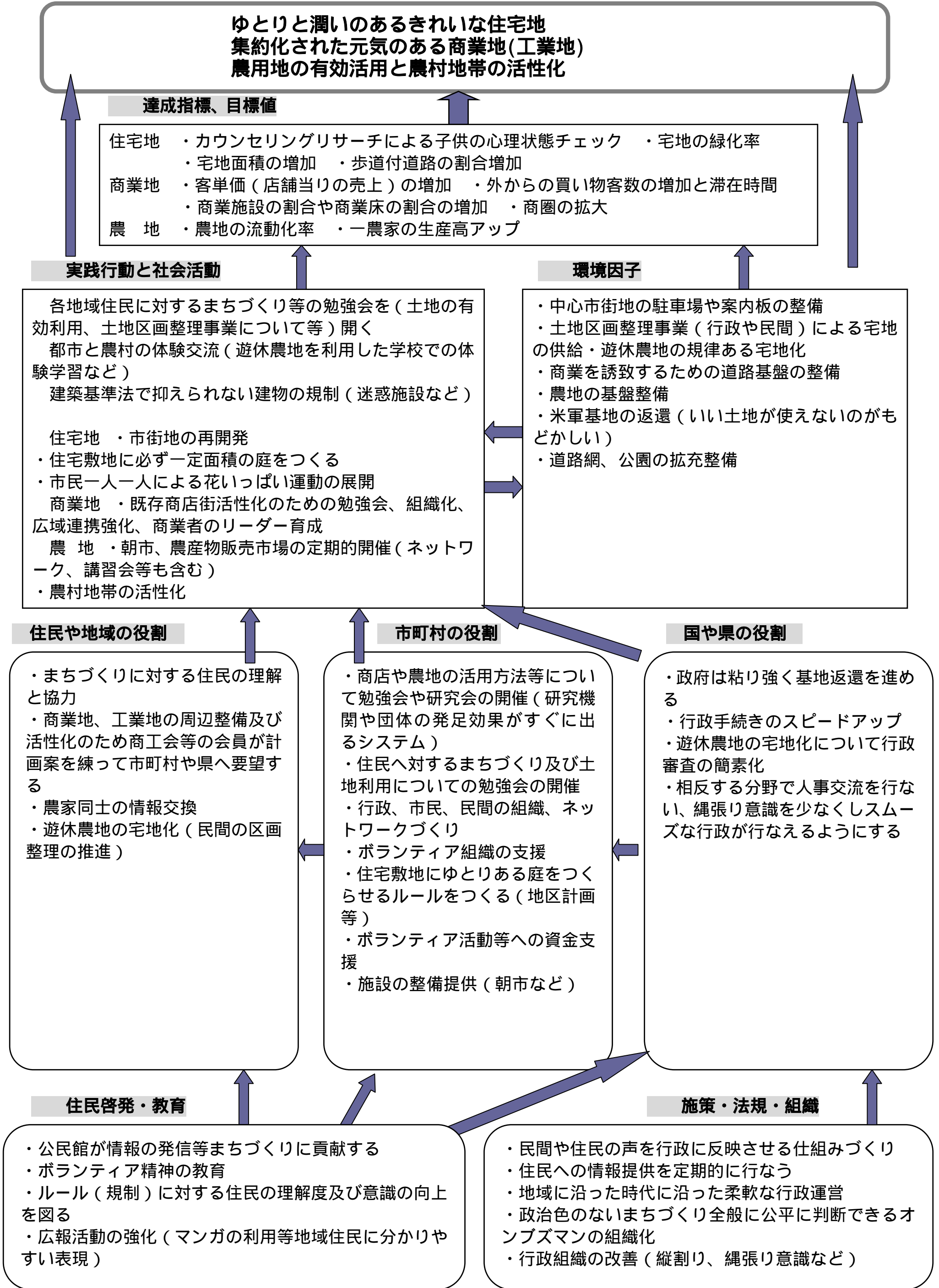
- ・住民や市町村が独自性を持ってまちづくりを行える体制づくり(基本的な道路計画だけを国・県が行うなど)
- ・市町村や県が担当している事を住民に任せる制度づくり
- ・政策決定の場へのNPO、NGOの参加システムづくり
- ・行政手続きの簡素化
- ・財政支援、予算確保(国)
- ・情報公開の徹底(公共事業に対する説明義務)
- ・自然環境等保護区の設置
- ・環境教育予算の増額
- ・市町村が協働で取り組むまちづくりにおける調整役(県)

住民啓発・教育

- ・TVや新聞の利用した広報 ・幼稚園や小学校低学年からの環境教育等の義務化 ・専門員の派遣 ・日本の古くからある暮らしを見直し、環境にやさしい生活を取り戻す ・地域環境、周りの再発見 ・環境教育指導者の育成 ・地域特有の文化(伝統)の掘起こし ・村屋を中心とした地域活動の強化(地域のことを考える場) ・看板、常設展示場をつくる。(環境問題など)常に目に付く、意識してもらう(身近な場所への設置、学校、自治会単位) ・地域人、長老の語りべを通して地域の勉強会を行う ・子供に自分達のまちについて考え発表する場を企画する

施策・法規・組織

- ・委員会等にNPOやNGOを入れる制度の確立 ・計画を途中でリセットできる仕組みづくり ・まちづくり条例の充実、強化(罰則など) ・ペットボトル、カンに対する法的規制等
- ・計画段階から地域ニーズを取り入れる広い視野の計画づくり
- ・建築協定、地区計画などつくり緑を増やす
- ・環境を復元、回復すべき地域を指定する法規
- ・公民館の役割、活用の見直し ・自治会の活用(現代に合うように自治会を統廃合) ・地方自治を確立する為の法整備
- ・参加の場としてワークショップを政策的に活用して住民の意見を広く反映する



快適な都市交通のネットワークを確立した 人と環境にやさしいまちづくり

達成指標、目標値

- ・都心の人口密度
- ・失業率の低下
- ・交通量及び混雑度
- ・公共交通機関の利用率
- ・公共交通機関の定時制
- ・自転車の保有台数
- ・信号待ち一回
- ・広域内の移動時間
- ・自転車台数の増加
- ・公共駐車場の利用率
- ・燃料消費量の低下
- ・歩道の整備率
- ・歩行者数の増加
- ・交通弱者が交通に関する満足度

実践行動と社会活動

- 公共交通
- ・公共交通機関の積極的な利用
 - ・幹線交通機関（公共交通）の早期決定
 - ・各種交通実験の実践
 - ・渋滞・排ガス問題への対応
 - ・マイカー使用の自粛
 - ・電気自動車を買う
 - ・一世帯当り保有車両は2台まで
- 市民と行政の協働による公共交通システムの運営
道路づくりの見直し整備

環境因子

- ・基地内を横断する道路を建設する
- ・公共性を考えた基地内道路の使用
- ・歩道を大きくする（緑地、コミュニティ）
- ・交通弱者が歩きやすい歩道の整備
- ・定時性のある公共交通の整備
- ・公共交通バスや鉄道等の整備
- ・バス経営者と大型店舗や商店街との共同経営（トロリーバス等の運行、動くコミュニティ広場）
- ・都心の自転車道路の拡充
- ・信号機を少なくする
- ・車の種類による道路の使い分け
- ・立体交差の建設（コザ十字路等）
- ・交通使用料金を安くする
- ・右折だまりをつくる
- ・車線幅員の拡大
- ・公共駐車場の整備
- ・総合交通体系の立

住民や地域の役割

- ・車道や歩道の美化活動を行なう
- ・自然回帰的発想で手作りのまちづくり
- ・バス停留所のコミュニティ的広場かを行政に提案する
- ・積極的な市民参加のまちづくり
- ・マイカー使用の自粛
- ・自転車の活用
- ・基地問題についてコザ広域一体となった住民運動

市町村の役割

- ・成功事例の検証
- ・バリアフリーの実践されたまちづくり
- ・住民へ積極的な行動を示す（目標を明確に示す）
- ・公共交通機関が拡充された沿線沿いに駐車施設の無い団地の建設
- ・住民意見の重視

国や県の役割

- ・車検制度を厳しくする
- ・低公害車優先の法制度を拡充
- ・電気自動車を買ったら補助がもらえる
- ・アメリカへ交渉に行く
- ・100年の大計を考えたまちづくりの実践（疲弊しないまちづくりとは、ガウディ的まちづくり）

住民啓発・教育

- ・環境を大切にする教育の実践
- ・地域自治会の環境啓発活動の充実（将来の子供達の教育）
- ・受験勉強だけでなく学校教育でもっと地域の問題を取り上げる（道徳教育）

施策・法規・組織

- ・交通に関する規制の条例化
- ・情報公開の義務化
- ・道路に関する構造令地元要請を考える組織をつくる
- ・各団体の統一化
- ・車所有の許可制
- ・地域自治会、商工会等の総合的な組合
- ・国県市住民が一体となった情報公開と意見交換センターの設置

QOL(将来あるべき姿)・計画理念

地域の歴史文化を活かした 自然が豊かで 潤いのあるまちづくり

達成指標、目標値

- ・文化行事(村芝居、エイサー)の増加
- ・古い文化、新しい文化が調和した町であると教える人が増えた
- ・雨が降ったときの海の色
- ・海側から見る島の景観
- ・街路、公園、住宅地の緑
- ・道路植栽の達成率
- ・色々な豆博士の数
- ・歴史公園の整備、中部地区グスクロードの完成
- ・名所、旧跡数の増加
- ・小鳥のさえずりが聞こえる
- ・四季折々の植物が楽しめる
- ・公園の利用率
- ・歩いて感じる道路のゴミ
- ・緑陰率の向上

実践行動と社会活動

- 地域の歴史文化の継承(文化財めぐりのコーディネーターを置く、年一回村芝居の復活、三味線や踊りなど文化芸能について無料指導者の育成等)
- 自然環境の保全(森を残す又は守り育てる、自然を守る(破壊していないか)意識調査をする等)
- 都市の魅力づくり(樹木の統一やコスモス広場など特徴のある街並みづくり、人が集まりたくなるようなテーマを持った又は地域のニーズにあった公園整備等)
- 道路環境の整備(道路整備の際は植栽帯を設ける、生物の住処となるような街路樹整備方法の検討、住宅地域や商業地域への車乗り入れの禁止等)
- 地域の交流促進(ポケットパーク等を利用した地域の交流促進)
- ゴミの減量、リサイクル(マイバック・マイコップの使用、生ゴミの回収システム確立等)
- 緑化活動(住民が主体となって敷地にシンボルツリーを植える、年に1回全県的なグリーン推進の日を決める、緑を増やすための行動計画づくり等)
- 災害に強い環境づくり(雨を浸透させる努力を行う)

環境因子

- 文化財の保全や活用を視点に入れた歴史公園等の整備
- 身近にある文化財や拝所などを説明する看板を設ける
- 身近にいる昆虫や鳥などイラストで説明するボードを設ける
- 河川整備の完全実施(基地内を含め海に至るまで)
- 自然素材の活用による河川整備及び工法の研究
- 散策できる道の整備、歩道や街路樹の整備等による子供からお年寄りまで安心して歩ける道づくり
- 鉄道導入など車社会の見直し
- 高齢者がユンタクできる身近な憩いの場の整備(住宅4軒一箇所程度)
- 地域や住民が緑を増やすことのできる空間を確保する(行政が主体)
- 旧密集集落も古き良き景観を残し活かした防災システムづくり、各戸を対象にした災害時放送システムの整備

住民や地域の役割

- 自分の目でみてまちの現状を考える
- 地域自治会の組織強化(緑や公園の維持管理等、おらがまち意識を育てる)
- 周りの人に見せることを意識して潤いを与える緑を住宅に植える
- 住民自ら緑を増やすため、苗木の状態から緑を育てる
- 身近な文化財や公園等を地域活動の一環として清掃を行なう
- 各自治会が主体となっ清掃日、グリーン日を設け活動を推進する
- 自然(河川、緑地等)を愛するNPO活動の育成
- ゴミを出さない活動、日用品のリサイクル活動、美化運動の充実強化

市町村の役割

- 小さい単位(自治会等)でのまちづくりコンテストを行なう
- 地域の人材を活用育成するシステムを構築する
- 地域ボランティア、個人、団体に優良賞として形にしてあげる
- 市町村にゴミ問題処理担当窓口を設ける
- 行政がゴミ問題の解決を最重要課題として取り組む
- 広報等で緑化に力を入れている老人会や婦人会等を地域に知らしめる
- 生ゴミの堆肥化システムの運営管理
- 歴史の語べを育成する
- 人材バンクを作る

国や県の役割

- 広域のまちづくりに関する表彰制度を設ける
- 森を育てる基金の創設
- 月間によってまちづくり活動の強化を図る
- 自然体験学習のカリキュラムを増す
- グスクロード等の整備において県は南部や北部との連携等の調整役となる
- 土地利用計画等の計画策定段階における環境保全の強化(川上管理)
- 住民参加ワークショップをもっと色々な分野まで広げていく
- 地元主体の組織づくり、活動方法等の支援
- 花いっぱい運動等への補助

住民啓発・教育

- グスクロードを活用した総合学習の実施
- 地域の文化財講座や自然観察会(バードウォッチングなど)の実施
- 地域のおじいおばあ達との交流の場を設けて、その中から色々な豆博士を探す
- 各団体でのゴミ問題等の学習会の開催
- 子供達による意見交換会(自分のまちの問題点)
- 誉めて伸ばす教育の推進
- 老人会や婦人会、PTA等を通じたボランティア活動の啓発
- 有効的なリサイクル教育
- 教育機関を通じた奉仕の心、NPO育成の徹底教育

施策・法規・組織

- 自然を守る法制度の整備
- あらゆる分野でワークショップ等による住民意見を反映させるシステムを確立する
- 各法規や審議会等の中に地域住民の声が反映されるワークショップ、パブリックコメント等を取り入れる
- 子誉め条例(子誉めコンクール、子誉め賞等)
- 雨水、排水の処理に関する規制の強化
- 国会議員の国会審議のあり方(喧嘩ではなく誉め合う審議)
- グリーンデー(児童、生徒の全県一斉、地域)の設置
- 各部局の積極的な横の連携

環境・歴史・産業と調和した 地域にやさしいまちづくり

達成指標、目標値

- まちの活気
 - ・人口
 - ・就業者数
 - ・農業生産数
 - ・特産品の数
- 自然・生態系
 - ・商業施設数
 - ・地元ベンチャー企業の数
 - ・動植物の数
 - ・海や川が澄んでいるか
 - ・緑が整備されているか
 - ・苦情の件数(悪臭など)
- コミュニケーション
 - ・自治会の活動状況
- 歴史・文化
 - ・歴史資料館等の利用状況

実践行動と社会活動

- まちの活気
 - ・海の駅づくり(客船バースと特産品販売、東南アジア観光ルート作り)
 - ・地理的条件を活かしたヨットレース等のイベントの開催
 - ・歴史文化とイベントの結合
 - ・特産品の生産地と加工施設のマップ作り(情報発信)
 - ・観光闘牛の整備による観光客の誘致
 - ・名店街を活用し恩納村の観光客を引き込む
- 自然
 - ・生態系に配慮した河川工事(三面張りを避ける 土手の植栽を考え直す 流域の植栽を奨励するなど)
 - ・市民農園を整備し農作業による憩いの場を提供する
 - ・川の浄化システムの確立と浄化活動の実施
 - ・花木による街路と憩いの場づくり
- コミュニケーション
 - ・親子自然観察会を行う
 - ・石川市の色々な情報に詳しい人を集めた人間マップ作り
 - ・まちづくりボランティア活動の推進
 - ・まちづくり活動による婦人会活動の活性化
 - ・青年会活動の活性化
 - ・まちづくりリーダーの育成
- 歴史・文化
 - ・石川の歴史上の史跡を整備する(歴史マップの作成)
 - ・まちづくりNPOの育成
 - ・自治会が主体となった公園管理
 - ・市民によるまちづくり協議会の設置

環境因子

- ・那覇～名護モノレール整備
- ・公共交通の整備
- ・老人福祉施設や娯楽の場の充実
- ・美しい自然がある
- ・子供達だけで安心して遊べる河川公園の整備
- ・石川川の親水性公園化
- ・石川川の整備
- ・伊波城跡を歴史公園として整備
- ・伊波メンサー継承のための支援施設の設置
- ・石川料理名店街をつくる(てびちそば、中味汁)
- ・河川をきれいにしボート等で遊べる様にする(背後の市街地も含めダムから海まで)

住民や地域の役割

- ・まちづくりの主人公はあなたです(一人一人がまちづくりの主人公であると自覚する)
- ・石川で働きたいと思う
- ・海の清掃や周辺の緑化など市民や自治会等が積極的取り組みと思う
- ・歴史や文化など守るべきものは守りながら、新たな発想をまちづくりに活かしていくことが大切だと思う
- ・まちづくりシンポジウム、協議会や委員会等に積極的に参加しようと思う
- ・森林など自然の保全や再生が住む人にやさしいまちをつくるために重要だと知っている
- ・石川らしい特徴ある景観づくりが必要だと考える

市町村の役割

- ・業種に応じた用地確保など、企業誘致により働く場を増やす
- ・予算援助を含めたまちづくり市民活動への支援
- ・各種市民団体とネットワーク作りの支援
- ・「市民の声」課を設置して市民の声を集める
- ・広域的イベントにおける周辺市町村や各種団体との調整
- ・魅力ある街並みを実現するための景観基準や制度づくり
- ・生垣や住宅地緑化に対する補助、緑化コンクール開催と表彰等

国や県の役割

- ・広域的イベントにおける周辺市町村や各種団体への支援
- ・自治体で行うまちづくりシンポジウム等に対する予算的な支援
- ・石川川の三面張りの撤去と川の中のヘドロ・廃棄物の撤去
- ・市民の声を根気よく集め公開する(情報収集と公開)
- ・建築士技術の向上
- ・石川川沿いの樹木(さくらを植える)

住民啓発・教育

- ・石川市の歴史を学校の総合学習に取り入れる
- ・石川市の簡単な歴史教科書の編纂
- ・世代間を通じた交流学习(古き良き時代話など)
- ・子供を中心とした体験学習(農業体験等)

施策・法規・組織

- ・働く場所の確保を支援するための法整備
- ・都市計画審議会へ市民代表を参加させる(市民意向を引き出す)

山紫水明ヤンバルの文化的で魅力的なハートコミュニケーションの生まれるまちづくり

達成指標、目標値

- ・せせらぎ(水の音)がある市街地(商店街)
- ・エコ・ツーリズムに参加する観光客数、エコ・ツーリズムを中心にした観光産業の充実度(地元の商品が増えたとき)
- ・やんばる観光客数(消費指数、リピーター指数、魅力数)
- ・中心市街地の活性化がハートコミュニケーションの場を広げる
- ・空き店舗の有効活用(利用度)
- ・住民のコミュニティーを商店街に設置、常にボトムアップに意見を拾うシステムを
- ・市街地のどこにいても緑(山)が見える(景観条例的なもの)、緑地率的なもの(例:宅地内)
- ・宅地における緑化率、公共施設における緑化率
- ・違法駐車台数が減る(一方通行路が減って渋滞が緩和されたとき)
- ・井戸端会議等のできる(気軽な)コミュニティー広場の充実・増加(施設と施設の間等で小さくても良い)
- ・経営者の高齢化(次世代へと継承)
- ・客のニーズを考えた品揃えかどうか
- ・どこから写真を撮ってもきれいな街並み

実践行動と社会活動

- ・自然体験、社会参加が出来る教育カリキュラムの実施(学校教育:小中高の中で)
- ・発展地域の利用、規制(計画的な土地利用、為又周辺、パチンコ屋、用途)
- ・住宅地、商業地などの住み分け、農業他
- ・ヤンバルの各地域(市町村)のイベント、魅力内容調査と北部ヤンバル年間スケジュールと歴史的、文化的イベントの推進、北部ヤンバルの年間観光メニューづくり
- ・地域資源の掘り起こしを行う(景観等も含めて)
- ・特産物を料理し食する場所を売り場と連動させる
- ・公設市場の品揃えに特色を持たせる(例えば特産物主体にするとか)
- ・個店のレベルアップと業種業態の見直し
- ・自然保護区と都市開発区の明確な区別

環境因子

- ・車優先から歩行者優先へ
- ・車道よりも歩道を拡充
- ・産業道路の個別化(都市交通)
- ・交通アクセスの改善
- ・公共施設(福祉・文化・スポーツ等)との複合施設の設置
- ・設置(買い物広場だけでなく暮らしの広場へ)
- ・役所役場の業務が市街地の中にあっても(土・日・公休日も実施)
- ・商業施設と住まいがほどよくつながったまち(1F店舗、2F住宅、職住近接)
- ・シンボルの花木を街の中に植える(特徴の強化)
- ・道路、歩道の拡幅(都市基盤の整備、シンボルロードとして)
- ・食文化の担い手の市場の整備
- ・公共アパートの市街地への建設
- ・電線のない都市景観整備

住民や地域の役割

- ・一人一人が主役のまちづくり
- ・各地域の体験型観光メニューづくり(漁港、農家、林業、川、海、空、山等)
- ・学生のボランティア活動強化(清掃活動等)
- ・各地域(地元)の魅力再発見活動(歴史、文化、ストーリー、ドラマが観光客にとって魅力です)
- ・歴史の生き証人(語り部:特に高齢者)から学ぶシステムを、或いは場所の設定提案し、実践行動があるならば、それらにアクセスする行動も必要
- ・地域の人がまちを歩く
- ・現在社会活動している団体、組織とのネットワークづくり
- ・スポーツ大会などイベントを増やす
- ・建築の形態等の制限を設ける(中心市街地を再生させるためのルールづくり、緑化率、高さ)

市町村の役割

- ・現在社会活動している団体、組織とのネットワークづくり
- ・スポーツ大会などイベントを増やす
- ・建築の形態等の制限を設ける(中心市街地を再生させるためのルールづくり、緑化率、高さ)
- ・ヤンバルランド作り、新特産品作り(行政のサポート)
- ・北部の魅力のPR、広報活動
- ・ナングスク、幸地川、ガジュマル周辺の文化ゾーンの整備(電線の地中化、都市景観に配慮)
- ・外灯の多い明るいまちづくり(特に学校周辺)
- ・住民主体のまちづくりの手法、行政の関わり等を広くコミーシャルする(知らしめる)
- ・北部市町村でネットできるイベントは?(例えばヤンバル桜まつりツアーとか)(宿泊、いやしプラン、広域で)
- ・これからの行政の投資を施設等のハコものに
- ・重点を置くのではなく、アイデア等の知、智の部分に投資を
- ・住民の意見を聞く機会を増やし、それを実行に移すこと

国や県の役割

- ・これからの行政の投資を施設等のハコものに重点を置くのではなく、アイデア等の知、智の部分に投資を
- ・住民の意見を聞く機会を増やし、それを実行に移すこと
- ・行政が民間レベルに積極的に投資する
- ・住民のアイデアを行政がサポート、市民のためになる目的なものは行政のプロとしてアドバイスしてほしい
- ・障害者の視線のまちづくり、障害者にやさしいまちは子供、お年寄りにもやさしい
- ・ディーゼル車の廃止
- ・クリーンなエネルギー利用
- ・たて型制度を、垣根を低くし、広域な
- ・地域のグランドデザインを造ることが必要
- ・北部総合運動公園の実現

住民啓発・教育

- ・北部ヤンバルに観光客を呼ぶこと、ふれあう為のイベント企画、小学校・中・高・大、各地域(各字)で出来ることをやる
- ・まつりへの小中高生者の積極的な参加(地域と学校のコミュニケーション)
- ・教育現場、社会、行政のコラボレート(教育現場に社会人の講師、社会の中で子供たちのインターンシップ、行政の体験)
- ・住民主体のまちづくりは人づくりにつながる
- ・各区で月1回の子供から老人まで参加の清掃日の実践

施策・法規・組織

- ・マスメディアを利用したコミーシャル
- ・学校の中にとらわれない、外へと足をはこぶ、カリキュラムづくり(地域とのコミュニケーション)
- ・ワークショップによる公共工事の進め方
- ・"住民が主体"
- ・リーダーを育成しスキルアップするシステムづくり

ふるさとヤンバルの心 自然・環境を保ちながら発展する街

達成指標、目標値

- ・街の中が花や緑の状況に保たれているか
- ・川が汚れていないか、ゴミが増えていないか
- ・生産者の出荷量 所得水準(アンケート調査)
- ・赤土汚染の抑制
- ・発展しているかの指標(人口動態調査、学校が続いているか:名桜・高専)
- ・誇りをもってヤンバルの人になる(土地を好きになっているか)
- ・お年寄りが市内のどこへでもバスで行けるまち
- ・エネルギー使用量の低下による

実践行動と社会活動

- ・農業と学生(名桜)との連携
- ・地域のすべてのビーチや川で泳げるようにきれいにする、例えば
- ・ゴミを捨てない、汚水を流さない
- ・ボランティア精神を育てる
- ・環境定期点検の必要性
- ・子供(小学生)やお年寄りが一人でバスで市内どこへでも行ける
- ・赤土の現状を多くの人に見てもらう
- ・一人一鉢運動、一日一品回収運動
- ・住民参加型の公共事業
- ・"緑・花の触手"花の里づくり(ゴミのコンポスト、地域コミュニケーション、学校と地域のつながり、児童とのかかわり、都市の景観づくり、一坪公園づくり、一坪花壇づくり)
- ・環境定期点検の必要性

環境因子

- ・"緑・花の触手"花の里づくり(ゴミのコンポスト、地域コミュニケーション、学校の地域のつながり、児童かかわり、都市の景観づくり、一坪公園づくり、一坪花壇づくり)
- ・自然緑地の保全
- ・市内全集落、或いは近くにバス停がある
- ・のぼり コミュニティーバス停に近づくにつれて、表示を大きくして見やすくする
- ・カリキュラムに入れる(学生と農業)
- ・70~80歳になったら免許を返す

住民や地域の役割

- ・よごれた川や海で遊ぶ
- ・海や川にゴミや汚水を捨てない
- ・自家用車の利用、依存を少なくする
- ・健康になるために歩く(ゴミ拾い)
- ・自分が住んで楽しいまちづくり(花を植える運動、ゴミの減量化運動)
- ・ゴミ拾い運動
- ・森を歩く
- ・区の単位で公共的(公共性)事業のあり方に対して意見を行政に上げる
- ・"年寄り"(75もしくは80以上)になったら運転免許書を返す

市町村の役割

- ・"年寄り"(75もしくは80以上)になったら運転免許を返す
- ・花の苗をくばる
- ・域内(生活圈)バスを運行させる
- ・教育委員会(児童) 農家(産業部)
- ・生ゴミリサイクル利用
- ・家庭用のコンポストへの補助
- ・公用車を低公害車に変える(住民の利用している車も含めて)
- ・市民活動ささえる体制
- ・域内バス運行に助成する
- ・ハードからソフトへ(モノの作り方)
- ・住民(区の代表以外)から直接意見を聞く場を設ける

国や県の役割

- ・市民活動ささえる体制
- ・域内バス運行に助成する
- ・ハードからソフトへ(モノの作り方)
- ・住民(区の代表以外)から直接意見を聞く場を設ける
- ・広告板利用(国道、規制緩和)
- ・8/10 道の日(公共バスの無料化)

住民啓発・教育

- ・お年寄りに習う(子供たちが)
- ・まちづくりミニワークショップ、ファシリテーターの育成、小中校生の参加
- ・自分たちのものだ!(意識を高める)
- ・テレビ、ラジオ番組の人気活用
- ・海や川での楽しい遊びを多くする(取り入れる)特に学校のカリキュラムに入れる
- ・公共交通機関(バス)が、安上がりだということを経験させる
- ・月に1回住民をゴミ処理施設に案内し(区単位)意識を高める(少ない区は表彰する)
- ・年2回の全市マナーキャンペーン実施(ゴミ拾いも含む)花壇(環境)コンクール
- ・学生に花の苗の作り方を教える(体験学習)

施策・法規・組織

- ・花・環境に関する市民懇談会、花(花壇)里親制度の導入
- ・住民向けの環境ワークショップ(花、ゴミ、生活全般)について話し合いの場を持つ
- ・バス運行の市町村営化を検討する
- ・週間単位で、環境に関して新聞等の広告などを利用して広報する

海・山と半島の特性(カスト、文化遺産、桜、水族館等)を活かした文化、人と人との交流を大切にしたいいいやしの里

達成指標、目標値

農業・漁業

- ・一次産業生産高が増加
- ・漁業・有機農業の生産高
- ・農業従事者の増加数

交流

- ・地域内イベントの充実・活性化(町営体育館、多目的イベント広場、町営グラウンド、各観光施設)

健康

- ・人口が増えて住民も健康で平均寿命が延びている
- ・介護認定の数(健康度)

文化・芸能

- ・地域間の伝統芸能の交流(半島芸能祭)
- ・文化や半島の特性を図る指標(景観賞や芸術等の題材になるなど、文化遺産の指定登録等の件数)
- ・集落の整備保全(景観モデル地区数)

自然環境の保全

- ・サンゴ礁の生育状況(珊瑚の再生)
- ・コバルトブルーの海(海の色)
- ・珊瑚が生き返っている(甦生)
- ・山里カルスト周辺が自然公園になっている

- ・自然公園の指定、整備の状況
- ・海と山(森林面積、景観保全地区)
- ・地域、地区公園の整備
- ・下水道施設整備率

観光

- ・観光客と地元の人との交流が活発
- ・人と人との交流(観光客の入客数)
- ・滞在型観光客が増えている

いやし

- ・観光客の滞在日数の増加(本部町に)
- ・地域との交流があるか

実践行動と社会活動

自然環境の保全・保護(赤土・開発等)

- ・農業(家)に関し赤土流出防止対策の補助対応を行政が行う(一時的な対策ではなく永久的な対策)
- ・農場(畑)に沈砂池を設置
- ・土地開発のチェック(乱開発のチェック)
- ・自然環境保全のために良、不良のチェックと解決策の検討

ゴミ対策再利用

- ・再利用できるゴミの北部或いは沖縄全体での強い取り組み(集めても利用するためコストが大きく無駄になるものが多い)
- ・ゴミの分別(種類別): 再資源利用の促進 北部全体を考える 前連国(ドイツ)の視察研究
- ・子供会、自治会によるクリーン作戦
- ・ゴミ処理(観光地でのゴミの持ち帰り) ・ゴミの再利用の促進
- ・集落景観の保全のために地域住民の清掃作業と来客者のゴミ問題への意識向上

農業

- ・農業の大型化と小型化を行うことで住民参加を

文化・芸能

- ・半島芸能祭を開催する
- ・景観点に優れた集落の保全、整備(観光資源として活用)
- ・資源環境を守るために建築物の区画整理(適用立地): 墓地などを規制(景観)

観光・いやし

- ・ホームステイ型民泊の活用(長期滞在) 他域とのふれあい いやし

都市部と周辺地域の整備のバランス

- ・自然破壊に対する規制・抑制: 建築物の規制
- ・保存地域の活用(空き屋等の再利用)
- ・都市部の整備と周辺地域の整備のバランスを図る
- ・ホテル等施設と農家との橋渡し(観光と農業の連携)

環境因子

- ・観光客に限らず地域間の交流の核となるセンター機能をつくる(例: 問い合わせを受ける、手配をする)
- ・健康増進センター(従来型ではなくてアロマなど)
- ・集落景観の保全のために電柱の地下埋設と車両進入路の限定等具体的なハード整備
- ・農業、漁業を増加させるために農家のネットワークの整備と住民協力体制の充実
- ・海、山の活かし自然体験型レクリエーションの拠点を形成
- ・横の連帯、話し合いがまだまだ足りないので、行政、各種団体等の話し合いの場づくり
- ・作るところが全責任を持つ(製品): システムの確立(ゴミ不法投棄)
- ・地元産の物をつくるしくみ(ブランド)

住民や地域の役割

- ・町民全体の共通意識を持つ(自然保護及びその他)
- ・「自然、文化」住民の共有の財産であるという認識を高める
- ・町民が観光立町であるという意識を持つこと
- ・地域住民がお互いに(地域に)関心を持つ、交流する
- ・自宅周辺の清掃(美化)を徹底する
- ・自然環境保全のためにゴミを減らす
- ・各家庭で花を植える、それをつなげていって村町を花でいっぱいにする

市町村の役割

- ・行政側のまちづくりに対する意識の向上
- ・市町村は住民の意見を聞く
- ・人材発掘(各団体のリーダーとなる人材/40代以下)
- ・婦人会、青年会など活動内容等をもっと知らせる
- ・意見交換会(フォーラムの開催)(住民ワークショップ開催)
- ・住民参加型地域(まち)づくり確率、まちづくり事業計画の発信(もとぶ町だよりにより発信し各種団体へ参加募集)
- ・住民の代表として地域のリーダーシップとして認識をし住民サービスをしてもらいたい
- ・ゴミ等不法投棄の取り締まりの強化

国や県の役割

- ・ゴミ等不法投棄の取り締まりの強化
- ・赤土流出のない作物及び農地保全に関する研究

住民啓発・教育

- ・小中学生に対する地域学習の徹底(コミュニティーの大切さ)(教育委員会)
- ・大人も含めた道徳教育
- ・住民講座の解説(文化財、自然環境、芸能等)
- ・抜本的教育改革(早急に対処)
- ・住民への地域情報の発信

施策・法規・組織

- ・農家-観光協会-ホテル-行政間のネットワークづくり
- ・観光協会、商工会、農協、漁業が一体となった観光推進体制の強化
- ・土地整備に対する条例化(例えば土の流出対策を義務化)
- ・遊休農地の斡旋(農業委員会) 農地法3条見直し

人・ガンズウ 自然・ユガフ まち・プカラス
～人も自然も健康なまち～

達成指標、目標値

定住 ・人口増 ・定住人口が増加する ・夏場の電力費が下がる(まちの涼しさの指標) ・クーラーの使用率が下がる	観光 ・観光客にアンケートをとったら「癒される」と答える方が100%いる ・観光客人口の推移	快適 ・テーマのある街並みが増えた ・毎朝、鳥がみえる ・いつも小鳥のさえずりが聞こえる	緑 ・木陰の回らんが増える ・園芸天の売上が伸びる ・森のようなまちになったと感じる人が増える	交通 ・歩行者が増加 ・老人の歩行者が増加 ・歩いている人が多い(緑が増えた、歩道が良くなった) ・自転車利用者増 ・軽自動車第数が増える	福祉・医療 ・医療費の低減 ・福祉タクシーが増える ・メンテナンス工事が増加する	安全・安心 ・盗難率が下がる
--	---	--	---	---	--	--------------------------

実践行動と社会活動

- ・通勤に自転車を(職場にシャワー施設を)
- ・公共自転車を
- ・学生の自転車通学
- ・自宅前の道路の清掃
- ・百万本植栽計画
- ・国・県道沿いの民有地に植林を(グリーンベルト)
- ・漂着物アートコンクール
- ・小中学生に(春夏秋冬)木や花を植える日の設定
- ・宅地にシンボルツリーを一本
- ・暇な年寄りをなくそう
- ・エコマネーの推進
- ・若い母親の教育
- ・宮古織りをつける
- ・郊外型店舗との差別化を図る(中心商業)

環境因子

- ・宮古の歴史分化のテーマパークをつくる
- ・中心市街地活性化に向けた特色のあるまちづくり
- ・観光施設の整備「環境重視」
- ・長期キャンプ地としての施設整備「スポーツ科学」
- ・行政側は地域の住民を盛り上げるために具体的な方策・体制づくり
- ・観光農場の造成(農業を中心とした(体験できる)観光へ)
- ・スポーツ・リハビリ・健康づくり総合運動施設の整備
- ・海洋牧場の造成

住民や地域の役割

- ・(頼っても)人はやらない。自分・自分達でやる。
- ・道路・公園の里親制度への参加
- ・清掃の日の制定
- ・公務員の自転車通勤
- ・籠の作り方を教えるなど昔の知恵を継承していく
- ・小学校の空き教室の利用(講師派遣やコミュニケーションの場として)
- ・各家庭に自転車1台
- ・まちなかの「芸術学園」(アスピザー)
- ・アスピパークの整備

市町村の役割

- ・まちなかの「芸術学園」(アスピザー)
- ・アスピパークの整備
- ・公民館活動等といった地域活動支援のために、夜間勤務の公務員をつくる
- ・入島税の導入
- ・生産・教育コンクール
- ・ボランティア参加に対する貯金制度
- ・市町村合併
- ・生産者と消費者コミュニケーションの場としての青空市
- ・民具づくりの殿堂
- ・市町村の夜の勤務の増員
- ・自治会の内容、事務担当者の仕事の内容の具体的検討
- ・南国熱帯花木を増やす
- ・子ども・高齢者・女性が安心して歩ける道づくり
- ・自転車の乗れる道路の整備、子どもと大人と自転車が安心して通れる道路づくり
- ・行政職員のファシリテーターの育成

国や県の役割

- ・自治会の内容、事務担当者の仕事の内容の具体的検討
- ・南国熱帯花木を増やす
- ・子ども・高齢者・女性が安心して歩ける道づくり
- ・自転車の乗れる道路の整備、子どもと大人と自転車が安心して通れる道路づくり
- ・行政職員のファシリテーターの育成
- ・市町村合併に伴う国・県の補助対策の強化(積極的対策を市と協議とすべき)
- ・ものづくり校

住民啓発・教育

- ・海、緑、花、観光教育を小学校教育に取り入れる
- ・おじい、おばあ(60才以上)昔の話の集い
- ・花木の専門化を育てる
- ・高校生の町づくりへの参加
- ・教育基本法、テーマ(国際的な土着人)
- ・小・中・高一環教育校
- ・ゴミ教育

施策・法規・組織

- ・総合研究所
- ・地域づくりのための紐付きでない支援(制度が使いにくい)
- ・州法並みの条例制度を認めて
- ・実現するための対策室を国の中に設置すべき

人にやさしく自然にやさしく誰でも住みよいパンタガミヤーク島 - ウムヤス島ミヤーク -

達成指標、目標値

<p>活 力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の増加（出生率、UIJターンの増加） ・高齢者が一人で生活できる ・観光客が増加する 	<p>自然との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑被率が高くなる ・緑地協定締結の地域が増える ・植栽マスの増加（里親制度の推進） ・海がきれいになる ・原風景が復元される ・多様な街路樹が使用される 	<p>まちの住みやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末機の普及（高齢者が利用できる） ・街に生き生きした高齢者が増える ・外で遊ぶ子供が増える ・歩く人が増える ・駐車場・駐輪場が増える 	<p>防災・衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の冠水が減る ・下水道の整備率 ・害虫が減る ・ゴミのボランティア参加数が増える ・ゴミ処理能力が向上する ・不法投棄がなくなる ・悪臭がない
---	---	--	--

実践行動と社会活動

- ・まちおこし活動（グランドワーク運動）
- ・一日一善運動
- ・各種ボランティアづくり
- ・「里親制度」の充実
- ・地域美化活動
- ・業者間のネットワーク構築
- ・産業の活性化
- ・まちを明るくしきれいにする（街灯を増やす）
- ・花におおわれた宮古島の実現（緑地帯の整備）
- ・植樹祭のボランティアに積極的に参加する
- ・自転車に乗る（排気ガスが減る）
- ・リサイクル運動（マイバッグ）の推進
- ・ゴミを減らす（ポイ捨てをなくす）
- ・EMを使ったゴミ処理

環境因子

- ・NPO センターの設置
- ・デポジットシステムをつくる
- ・仕事（雇用）を増やす
- ・妊娠・出産・子育てに関する相談・医療充実・

住民や地域の役割

- ・個人の意識向上
- ・家庭（親子）での会話
- ・都市環境にいつも目を配る
- ・自分の島を大切にする
- ・自転車タクシーをつくる
- ・宮古島袋（マイバッグ）をつくる
- ・近隣のグループで環境美化活動
- ・HP（ホームページ）を充実
- ・通勤・通学に自転車を使う
- ・地場産業への取り組み（村ワザ市場）
- ・農業や特産品（づくり）の体験
- ・洞穴ツアーをつくる（ンマリガー（生まれガー））

市町村の役割

- ・島袋を作って配布（デザ 付-に依頼）
- ・祭祀を守る（人的にも、金銭的にも）
- ・特産物の活性化のための組織づくり
- ・「里親制度」の強力な推進
- ・「里親制度」のPR
- ・市町村の魅力あるリーフレットづくり
- ・特色あるエリアづくり（地域らしさ）
- ・各種企業の販売網拡充の支援（IT化）
- ・HPの充実（リンクを張る）
- ・下地～上野の横の連絡（ネットワーク）を充実する
- ・総合運動公園の整備

国や県の役割

- ・公園の維持管理費を充実する
- ・宮古にあった公園をつくる
- ・指標にとらわれない宮古らしいまちをつくる
- ・高齢者が安心して暮らせる予防医学（技術）の充実
- ・支援補助メニューの作成
- ・NPOの支援
- ・HPの充実（リンクを張る）

住民啓発・教育

- ・「里親制度」の民間におけるPR
- ・副読本による児童への環境ボランティア教育
- ・市町村長の自転車利用によるPR
- ・シルバー人材センターの活用（公園美化、団地美化）
- ・環境問題に対する幼児からの教育
- ・小学校から高校までの啓発活動（教育機関による）
- ・学校の授業に民間人（経験者）を起用する

施策・法規・組織

- ・自転車利用税をつくって自転車購入を安くする
- ・ポイ捨て条例の強化・拡大
- ・住環境の美化の程度によっては「美化貢献賞」として減税を実施

QOL(将来あるべき姿)・計画理念

南の島の夢空間
 ~ 医・職・充のある街 ~
 『おーりとーり』が活躍するまち

達成指標、目標値

<p>赤土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の翌日に何日(何時間)で海で遊べるようになったか ・河川(湾岸)がきれいになる、(ppm)濃度検査の定期的な実施 	<p>医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での待ち時間が短くなった ・八重山病院の待ち時間 ・光ケーブルを使ったイントラネットの整備 	<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オオゴマダラ(蝶々)がいつも飛んでいるまち(いつも100匹飛んでいる) ・ホウライカガミの本数が増える 	<p>活力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失業率、就労者数 ・就職率UP ・休日の留守宅が増える(余暇活動の場が増える) 	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人身事故の増減 ・交通事故0が只今更新中 ・歩道のバリアフリー度UP ・裸足で歩ける道路が増える 	<p>ゴミ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道に落ちている空き缶の量 ・ゴミの減量化 ・空き缶拾いの袋が減ったか
--	---	--	---	---	--

実践行動と社会活動

- ・ゴミ減の目標としてマイバッグ、マイボトルの薦め
- ・廃棄車両減の案として、石垣市における車両はできる限りリース車にできないか
- ・芸能文化を住民生活に根づかせる
- ・ゴミの散乱を減らすため、ゴミ箱を多く設置する
- ・所々に日陰の休憩所をつくる
- ・ボランティア清掃活動
- ・体験型地図の作成(歩いて何分かかかる、自転車で何分かかかるなど、街がイメージできる地図づくり)
- ・廃品回収
- ・各家への苗の配布
- ・曜日を決めて歩行者へ道路を開放する

環境因子

- ・人材育成ソフト・ハードの整備(教育環境の充実・大学の設置・専門学校を設置)
- ・市街地の駐車場整備
- ・携帯電話のつながらない場所をなくす
- ・各地域別に住環境の整備(例えば、商業地域と農村は違う)
- ・歩きやすい歩道の整備
- ・四箇の空き地を活用した市街地活性化(買い上げ・借り上げて駐車場化等)
- ・浸透性舗装道の整備
- ・子供達の1日警察官体験
- ・ホウライカガミの植栽
- ・一家一草運動(オオゴマダラのえさ)
- ・市役所を移転させる(敷地が広いところへ)

住民や地域の役割

- ・施設や共有空間(公園)等の里親制度への取り組み
- ・施設計画については、住民参加型にした法が良い(地域・各種団体・住民側の積極的参画)
- ・人材育成の場に積極的に参加する
- ・自分に身近な行政問題は何かを明確にする
- ・施策・制度は市民の手で!!
- ・自分の家の回りからきれいにしよう!!
- ・交通事故のもと。飲まずなら乗せるな!
- ・地域の新聞
- ・市民は自分の税金の行方をチェックしよう
- ・問題意識の向上を図ろう
- ・地域マナー
- ・問題・課題の根源から目をそらさない

市町村の役割

- ・地域マナー
- ・問題・課題の根源から目をそらさない
- ・自治会活動の気運を高める手助けをやってほしい
- ・住民参加型の公共施設整備・計画づくり
- ・ボランティアへの助成
- ・農水産業の需要拡大
- ・コミュニティ助成の充実
- ・懇談会、ワークショップなど、行政と住民の対話ができる場を多く設けて欲しい
- ・新空港の早期建設
- ・道の駅の整備
- ・農家にも赤土対策についてもっと指導して欲しい
- ・役割分担、事業の検証

国や県の役割

- ・新空港の早期建設
- ・道の駅の整備
- ・農家にも赤土対策についてもっと指導して欲しい
- ・役割分担、事業の検証
- ・県立八重山病院の拡張
- ・新空港で赤土対策が万全というなら現状で赤土問題を解決して照明して欲しい
- ・国立公園の指定の拡大

住民啓発・教育

- ・教育プロジェクトの中に八重山の芸能分化を組み込む(クラブ活動等々)
- ・農家の意識づくり(畜産による堆肥を積んでいるものが雨で流れていく)
- ・農家も赤土問題について学んで取り組んで欲しい
- ・ワークショップの数を増やすこと

施策・法規・組織

- ・ランダムに市民を選んでのワークショップの開催
- ・ポイ捨て禁止条例の制定
- ・県立病院のベッド数の規定の改善

緑豊かな美しい南国らしい愛にあふれた宝の島づくり

ゆったりと安心してらせるあたたかいまちづくり ~ 緑香る ふくらしゃ・やいま ~

達成指標、目標値

<p>美しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海・河川の透明度 (市民赤土調査) 青い海・白い砂浜・緑の海岸線 一定距離間のゴミ減量数アップ 町中のゴミが減る 公園・空地等の利用率があがる サンゴが多く再生している ボランティア参加が増える マイバッグが増え、ポリ容器・ポリ袋が減っている 	<p>緑豊か</p> <ul style="list-style-type: none"> 街路樹の木洩れ日の数 (緑陰率) 昆虫の数・樹木の数 道路が景観的にすっきりする (雑草等の減少) 民家に花・緑が増える 石垣・赤瓦・屋敷林が増える 	<p>愛・あたたかさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民が手入れする町中空間が増える 歴史・文化が伝わってくる 広場などで石垣の方言と標準語の方が同じ輪の中にいる お年寄りや若者が話しているのを見かける 長寿日本一の島になった 普通に町中に障害者がいる 	<p>ゆったり・香り</p> <ul style="list-style-type: none"> 散歩する時間が増える (海辺など) カフェが増える 公共施設の利用者が増える 夜香木が増える ジャズミンティーを飲む人が増える 	<p>安心</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者の夜間徘徊が減る 迷う人が減る 渋滞が減る 事故が減る アスファルトに代わってコーラルウェイが増えた
--	--	---	---	---

実践行動と社会活動

- 生活道路を演出する (緑・石垣・生垣等)
- みんなが自転車に乗る
- 公園や緑地帯等良い所と悪い所を見てまわる
- ボランティア育成、公園清掃
- 生ゴミを回収する
- リサイクル (ゴミや建築資材等) を進める
- 空地の有効利用を進める (地主と行政がタイアップ)
- 石垣・赤瓦・屋敷林の整備
- 壁面緑化を進める
- みんなでお茶 (アフタヌーン) をする
- 赤土調査を実施する
- 住民が利用しやすい公園等の公共施設を整備する
- ゴミの五種分別の撤去
- ゴミパトロール委員会の設置や、週に1度、早朝清掃時間を設ける
- ポリ袋やトレー、バックでの販売の廃止
- 地区単位で街並みについて考える場をつくる
- (仮称) 街づくり協議を設置し、「管理」「維持」まで考えるシステムをつくる
- 景観に関するルールづくりをする。
- 地域の子供会を増やす。推進活動をする。
- いしがき島ブックをつくる。(島の良い所、風習をまとめたもの)
- 実情に合った石垣らしい都市計画を定める (用途地域など)
- 観音堂地域の歴史公園解除し、歴史性を活かしたまちづくりをする

環境因子

- 赤瓦の工場、ストックヤードが必要
- カフェがたくさんある
- かおりストリートが設置される
- リサイクルセンターをつくる
- 生ゴミ回収センターをつくる (堆肥化 市民への提供)
- みんなが安心して利用できる空間がある
- 自転車専用線がある
- 伝統工芸館がある
- 民俗博物館がある
- 共通の趣味や特技を通じて「仲間」を作ることができる体制をつくる
- まちづくり協議会をつくる
- 観光客や市民を対象とした「まち情報交換所」のようなものを運営する

住民や地域の役割

- 見通しの良い道路をつくる (低い塀)
- 緑花友の会の創設、ハーブ・夜香木の普及
- 住民主体の公園の維持管理
- 敷地内の緑地率の向上に努める
- 生ゴミの堆肥化を進める
- マチグワの整備
- ウォーターフロントを散歩する
- アフタヌーンタイムを設ける
- かおりストリートの整備
- 「まちづくりアドバイザー」の育成
- 自販機の撤去、景観阻害広告の撤去
- 建物の色の統一
- 敷地の細分化の禁止
- 赤瓦職人の育成・活用及び瓦工場整備
- 異業種交流の推進
- 各地域の伝統芸能大会 (獅子舞、棒踊り等)
- 一人暮らし老人等の家を訪問し、世話をしたり話を聞いてあげたりする
- 一人ひとりがホストになり、義務を果たす
- 島のことを良く知り、まちづくりに関する草の根運動を展開する
- 事業等を導入する際に地域のルールを活かすよう、意見を聞く場を設ける

市町村の役割

- 赤瓦のストックヤードを整備する
- リサイクルセンターを整備する
- 緑化や自転車利用に関する奨励金制度の導入
- プランターの貸し出し
- 公共施設でのハーブ畑の整備
- ハーブ苗の配布
- かおりストリートの整備
- 夜香木の普及 (無料配布)
- 「まちづくりアドバイザー」の育成
- 自販機の撤去、景観阻害広告の撤去
- 建物の色の統一
- 敷地の細分化の禁止
- 赤瓦職人の育成・活用及び瓦工場整備
- 異業種交流の推進
- 都市公園整備と住民参加 (コンペ)
- 公園・街路樹の里親制度
- ウォーターフロントの公園化
- 福祉のまちづくり条例 (石垣らしい) の強化
- 施設間をまわる福祉バスの導入
- 耕作地の整備 (赤土を出さない)
- 市が保有する情報を徹底に開示し、住民と情報を共有し、地域が一体となる街づくりをする

国や県の役割

- まちづくりの研究機関 (専門家・スペシャリスト) をつくる
- 「まちづくりアドバイザー」の育成
- 福祉のまちづくりのチェック機能の整備
- 景観条例 (広告や自販機の規制等)
- 都市計画法及び制度の地方分権化
- クリーンエネルギー利用の促進 (ソーラーシステム等の奨励制度)
- ゴミ処理施設の廃熱利用温水プール
- 耕作地の整備 (赤土を出さない)
- 新空港までの道路の整備 (花いっぱい)
- B/Cを1.5以下でもいい
- 街づくりの進み具合を広報等で一般に公開する
- 規則の緩和 (補助事業のメニュー)
- 費用に対する効果について、数学では表れない部分を評価して欲しい。

住民啓発・教育

- 子供達へ自然体験活動の場を与える
- 小さい頃からの学校、家庭における生活習慣のしつけや環境教育を行う
- 赤瓦屋根の家づくりについて専門家による啓発
- 住宅・環境に関するイベントの開催
- 意識向上のための異業種交流
- 町並みコンテストの実施
- 樹木の剪定講習会の実施
- 住民への「緑地率の決定」の普及 (情報提供)
- 生ゴミの堆肥化やゼロエミッションに関する教育
- “いしがき市民大学”を通じた人材育成まちおこしを推進する
- 地域の高齢者による公民館単位での方言教育の実施
- 石垣島の宝探しをする。(中学校の総合学習等で)

施策・法規・組織

- 福祉のまちづくり条例 (石垣らしい) の強化と、チェック機能制度創設
- 道路環境チェックオンブズマンの活用
- 地区計画制度の導入 (建物の色の統一等)、敷地細分化の禁止
- 景観条例 (広告や自販機の規制等)
- 屋敷単位での緑地率を決定する制度
- 世界中の良い街づくりの訪問・調査・研究を行う体制
- ゴミ分別を徹底するため高額罰金制度をつくる
- 赤瓦家の固定資産税の軽減
- ゴミ問題に関する専門チームを作り、地域住民が参画し、物事を決められる審議会等を発足させる
- 行政各課に対する住民評価制度を設ける